

第7回 ふくい建築賞

受賞作品

【大規模建築部門】

《最優秀賞》

いと勢保育園

設計者：清水隆之建築設計事務所

清水 隆之

施工者：(株)三木組

《優秀賞》

岡保こども園

設計者：(有)アーキズム建築設計事務所

瀬戸川 信之

羽場 千尋

施工者：永和住宅(株)

《優秀賞》

勝山市体育館 ジオアリーナ

設計者：(協)福井県建築設計監理協会

石グロ設計事務所

佐々木 基之・梶 久仁雄・水上 諭

石畝 正樹

施工者：(株)見谷組・大北久保建設(株)・(株)豊栄・

椿坂電機(株)・(株)シマキ工業

《奨励賞》

ほほ咲みの郷

設計者：(株)佐々木一級建築士事務所

佐々木 晃一

施工者：技建工業(株)

【中小規模建築部門】

《最優秀賞》

水嶋農機社屋

設計者：(株)ヒヤッカ 丸山 晴之

施工者：(株)フクシン

《優秀賞》

ひらざわ内科ハートクリニック

設計者：伊藤瑞貴建築設計事務所

伊藤 瑞貴

施工者：サカイ建設不動産(株)

《優秀賞》

弁柄色の集会所（岩本公民館）

設計者：吉田設計 吉田 修二郎

施工者：(株)関組

《奨励賞》

BOSTON CLUB

設計者：(株)BAUM 岸名 大輔

施工者：山崎建設(株)

【住宅建築部門】

《最優秀賞》

なかとのくちちょうのいえ

設計者：伊藤瑞貴建築設計事務所

伊藤 瑞貴

施工者：タケウチ住建(株)

《優秀賞》

宮司の住処

設計者：やすらぎの家設計工房

大月 和源

施工者：大南建設工業(株)

《優秀賞》

house /

設計者：清水隆之建築設計事務所

清水 隆之

施工者：(株)深谷

《奨励賞》

富田邸

設計者：杉本秀・一級建築士事務所

杉本 秀雄

施工者：秀・建築アトリエ(株)

第7回ふくい建築賞 報告

ふくい建築賞実行委員会

矢 尾 憲 一

建築士会・建築士事務所協会・JIA建築家協会の設計3団体が主催し、福井県の建築業界の人材育成を目的に創設された「ふくい建築賞」は、今年度で6回目の開催となります。本年度はコロナ禍の影響で募集時期が遅れ、昨年10月5日～12月18日までとなり、大規模建築部門（延べ面積が500㎡以上）5点、中小規模建築部門（同500㎡以下）5点、住宅建築部門8点の合計18点（昨年18点）の作品の応募がありました。

今年も県内建築関係10団体の協賛と県・福井市をはじめマスコミ4社の後援をいただきました。心より感謝申し上げます。

一次審査は1月15日応募書類により実施。審査は森 俊偉（としひで）委員長（金沢工業大学名誉教授）、高嶋 猛（たけし）委員（元福井大学講師）、清水 俊貴（としたか）委員（福井工業大学准教授）の3名により慎重な議論を経て、大規模部門4点、中小規模部門4点、住宅部門4点の計12点を二次審査対象作品に選びました。

二次審査は2月19・20日の2日間にわたり審査委員が県内一円の現地を訪れ、直接設計者から説明を受けました。その結果、大規模部門3点、中小規模部門3点、住宅部門3点を最終審査対象作品に選びました。また「ほほ咲みの郷」「BOSTON CLUB」「富田邸」の3点を奨励賞として選びました。

最終審査は3月27日（土）福井県中小企業産業大学校にて約50人の聴衆が見守る中、公開審査会が開催されました。開催に先立ち、昨年まで審査委員を務めていた西本雅人氏（福井大学講師）より「研究が設計や教育の助けとなる」と題した講演会が行われました。

引き続き、最終審査にノミネートされた9作品の設計者による各15分間のプレゼンテーションと質疑応答を経て、公開による熱心な議論が行われた後、部門毎に審査委員による直接投票が行われました。名誉ある最優秀賞として、大規模部門は「いと勢保育園」（13点）、中小規模部門は「水嶋農機社屋」（13.5点）、住宅部門は「なかとのくちちょうのいえ」（15点）が選出されました。また優秀賞に大規



審査風景

模部門「岡保こども園」（12点）、「勝山市体育館ジオアリーナ」（12.5点）、中小規模部門「ひらざわ内科ハートクリニック」（12.5点）、「弁柄色の集会所」（12.5点）、住宅部門「house/」（13点）、「宮司の住処」（12点）の6作品が選ばれました。（（ ）内は獲得点数）

大規模部門・中小規模部門は審査委員による評価順が交錯し、僅差となりました。審査委員の苦悩が滲み出る公開審査会となりました。

審査会最後に森審査委員長より総評があり、奨励賞作品への評価とアドバイス。また各部門の評価が分かれた要因など、解説をいただきました。建つ土地の特徴を上手に引出し、「優れた建築」「福井らしい建築」を表現して欲しいと、エール送って頂きました。

この建築賞も創設以来7年目となり認知度が上がってきました。県民に理解され支持されるよう、この活動を継続していく覚悟です。また、多くの作品の参加が「ふくい建築賞」の原動力です。会員の皆様の来年度の応募をお待ちしています。



授賞式記念撮影

■ 第7回ふくい建築賞 総評

審査委員長 森 俊偉（金沢工業大学名誉教授）

今年度は諸般の事情から年明け後の審査となり、現地審査に際しては、福井の冬の生活・風土に触れるいい機会ともなりました。また今回、私以外の2名の審査員が交代。新たなメンバーでの審査となったこともあり、書類審査段階では十分な意見交換を図りながら進行するよう努めました。

評価に当たっては、本賞の趣旨と審査基準に沿っての建築の完成度を問いつつ、昨年と同様に、施設が建つ場所や地域の特性を抽出・理解し建築に反映しているか／プログラムに前向きな提案や意図があるか／これらを反映しつつ空間構成や表現に提案や意図するものがあるか／施主や施工者とのコラボレーションが適切でうまく可動しているか等に、関心を持ちながら審査し、併せて、各委員毎の評価の力点にも耳を傾けつつ進めるよう心掛けました。

○まず大規模建築部門については、今回児童教育施設の応募が数多くあり、同種施設に対するテーマ設定や対処方策の適否を同時比較しながら議論ができました。その他の点では、プロジェクト規模が大きく異なる施設間での評価の中心視座の置き所には、少々苦慮しました。

最優秀賞「いと勢保育園」は、建築デザイン的には大変優れたものとなっていました。特にインテリアでの園児のスケールに応じた空間構成、自然光や色彩の扱い等々、デザインレベルの高いものでした。しかし低年齢と高年齢の園児間の過度な分離等には疑問点が残りました。優秀賞「勝山市体育館ジオアリーナ」は、機能面・性能面で十分な成果を為し、アルミパネルによる二重被膜構成も軽快な表情づくりや環境調整方策として効果的なものになっていました。しかし建物の足元廻りに、市民が日常的に利用できるスケールダウンした親しみやすい空間がもっとあってほしいと思った。優秀賞「岡保こども園」は、暖か味と楽しさを感じさせる一体感のある施設となっていました。園内での視線の抜け方や、園を囲む小学校校庭や近隣家屋群との係わり方も、一体感や賑わいを助長するものとなっていた。しかし建築表現の新鮮味といった点ではやや物足りなさを感じた。奨励賞「ほほ咲みの郷」は、アット

ホームな住宅の集合体風情の造りとなっており、前向きな施設プログラムや運営の取り組み姿勢も評価できる点でした。

○中小規模建築部門は、施設種別がヴァリエーションに富み、規模的にもオーナーの意向がプログラムに反映されやすく、オーナーと設計者・施工者とのコラボレーションの有り様も含めて応募作品のいずれもが興味を喚起するものでした。

最優秀賞「水嶋農機社屋」は、ローコスト建築として、考え方から表現まで筋の通った、バランスの計られた優れた建築となっていました。無駄の無い適切な空間構成と構築方法並びに安価な使用材料で簡素で効果的な建築を創出しており、同時に、多少の荒っぽい使用をも許容してしまう包容力と土っぽさのある建築として、施設内容や周囲の里山の田園風景ともうまく合致していた。優秀賞「ひらざわ内科ハートクリニック」は、背後の足羽山の山並と同調した水平感のあるプロポーションや、穏やかでハイセンスなカラーコーディネートとサイン計画等、手際のよいまとまった建築となっていました。ビューの開けた内部空間も好感の持てるものでした。しかしながら、ややコンビニスタイルの配置や回遊性の実現度についてはもう一つ説得力に欠けていた。優秀賞「弁柄色の集会所（岩本公民館）」は、地域の伝統文化の維持・継承を意図し、和紙や弁柄塗を多用。和紙の里界隈の家屋が保持してきた風情を感じさせる建築となっていました。しかし一方で、外廻りの取り扱いの物足り無さが惜しまれた。奨励賞「BOSTON CLUB」は、古くなった建物を適切にコンバージョンしリニューアルしており、地場産業品を取り扱う建築としてのプログラム内容の工夫も評価できる点でした。

○住宅建設部門は、応募件数も多く、今年度も施主家族それぞれの生活スタイルや価値観を適切に反映した固有性のある住宅作品が多くありました。特に入賞した作品のいずれも、住い手に愛情を持って受け入れられている様子が見受けられ、大変望ましいことと感じました。

最優秀賞「なかとのかちちょうのいえ」は、比較的安価なセミオーダー住宅の提供をテーマに掲げ、トータルな完成度の高いものでした。規格寸法や手軽な材料に拘りつつ、十分な固有性と空間の豊かさ

をも創出しており、評価に値するものでした。優秀賞「house／」は、デザイン密度の濃いもので、コンパクトで繊細なスケール感に配慮した室内空間の造りなど、施主の生活スタイルとも整合したコンセプトで魅力的な建築となっていました。しかし、北陸の気候条件下での軒天や足元廻りの耐候性の可否など、気になる諸点も見受けられた。優秀賞「宮司の住処」は、永きに渡って神社境内にあった伝統的造りの宮司の住居に耐震対応を施し、維持・修築したもの。伝統的なものへの維持姿勢、木造耐震対応への労力を惜しまない取り組みに対し、特に評価がありました。しかし内部諸室間の空間の流動性等、伝統的な空間構成のよさの継承へのもう一段の工夫が望まれた。奨励賞「富田邸」は、開放感のあるワンルーム型式のリビング・ダイニング・キッ

チンは、ミニパーティーを好む施主家族の生活スタイルともフィットした空間となっていました。

今年度の応募作品の中では、「なかとのくちょうのいえ」の設計者の取り組みに特段の関心を持ちました。より質の高い住宅をより多くの人々の手に低価格で渡すとの考えの下に、空間づくりから販路システムまで総合的に取り組み、各段階でリアリティと質の高さを生み出している点、加えるに、場所の特性や住い手の生活スタイルに応じた固有性も併せ持ち得ている点に、多くの可能性を感じました。

新型コロナ禍の中で、本賞が、事務当局並びに関係者の多大な努力と協力によって例年通り開催できたことは大変意義あることと思います。今後のさらなる継続と発展に期待したいと思います。

■ 第7回ふくい建築賞 講評

審査委員 高 嶋 猛（高嶋建築研究所）

建築は時代とともに変化するが、変化するものと、変化せずに受け繋がれてきたものがある。特に近代以降は材料・構法・機能等の大きな変化があった。先人達の知見から、歴史的建造物に見られる形態、材料の使い方、合理性等には、今後も受け継ぐべき多くの考え方や手法があることが知られている。それは福井という風土の中で建築の耐久性にも深く関係し、また、歴史文化・風土に深く関与すると考える。最先端の技術を用いる場合でも、この点に留意することが肝心であろう。また、社寺、書院、数奇屋、民家等、それぞれの目的や機能は異なるが特有の美しさを持っている。

これらのことを頭置きながら私なりの審査基準を設け、応募要項にある審査基準を根底に据えて「ものづくり」としての建築という姿勢で審査を行った。

なお、設計者・施工者・施主との信頼関係があつての建築賞応募であり、喜ばしい限りである。

○いと勢保育園

周辺環境から決定された外部形態、手際よく構成された内部空間など、大規模な園舎をまとめた点は評価される。一方、自由な曲面の壁面の連続性を幅広の金属板で表現する際の出入隅部の統一性、保育室等と庭との関係への配慮への不足が惜しまれる。

○岡保こども園

集落内の既存園舎の建て替えに際し、周辺環境と旧園舎との継続性を考慮した外観や、木を多用し園の教育方針に沿うよう内外部活動に対応した開放的な空間構成は好感が持てる。園庭に面するテラス回りの柱配置や柱脚部、床仕上等に一工夫欲しかった。

○ジオアリーナ

アリーナの楕円形と、多雪地域での大庇の玄関ポーチや附属施設の立体とが素材を変えながら一体感を見せる。アリーナ内部の方向の視認性も良く、災害時の拠点施設としても整備されている。温かみを外部に求めるのは欲張りであろうか。

○ほぼ咲みの郷

南に山を控えた敷地に、おおらかに延びた棟が小さなスケールで構成された好感の持てる形態を見せる。ただ、内部で中心となる居間的空間に立地の特性を活かした開放性が欲しかった。

○水嶋農機社屋

施工費を押さえながら木材と外皮の波板とで構成され、機能的にも意欲的な建築であることは評価できる。ただし、柱・梁と構造的補助材の材質・寸法・位置を検討した独自の真壁意匠の創造、道路際のショールームに照明を含んだ工夫が望まれる。

○ひらざわ内科ハートクリニック

端正で落ち着いた外観は建物の機能に相応しく、内部空間の表現にも苦労の跡が伺える。ただ、前面

を特徴付ける低い軒部分の構成を、真壁・大壁の視点を加えながら、開口部回りの統一感に関しての検討が欲しかった。

○弁柄色の集会所

伝統的家屋が色濃い地域で、主に住宅で育まれてきた伝統産業と手法の継承のため、材料を工夫しながら公共空間へ活用した計画に共感が持てる。ただし、伝統的家屋特有の真壁の意匠を洗練した意匠の検討がさらに望まれる。

○BOSTON CLUB

既存のRC造の改修部では、躯体を現しながら家具との一体整備による再生の好例を見せている。ただし、隣接建物への新築2階渡り廊下は、既存部との接続部分等での完成度が低いのが残念である。

○なかとのくちちょうのいえ

田園が南に広がる敷地に、周囲と違和感のない色彩と形態で建つ小住宅である。自然環境を可能な限り取り入れ、単純で明快な構造とで心地よい空間と

なっている。この空間に、真壁と大壁の意匠への洗練を求めるのは欲張りであろうか。

○宮司の住処 耐震リノベーション

落ち着いた佇まいの神社境内で、旧住居の佇まいを残すことに価値を置いた再生計画には好感が持てる。ただ、耐震改修に加えて、全体的に伝統的な佇まいを継続できる手法の工夫が望まれる。

○house/

郊外の住宅地に建ち、研ぎ澄まされた白い空間を見事に主張した住宅として評価できる。ただし、雁行形平面と勾配屋根の形態と敷地と関係、外部に現れる木部の表現や屋根端部の納まりへの配慮と工夫が望まれる。

○富田邸

住宅街の北東角地に建ち、2階に居間等の機能を置いて通風と採光を確保した点は評価できる。ただし、交差点に設けた玄関の位置と、内外部の構成への工夫が望まれる。

■ 第7回ふくい建築賞 講評

審査委員 清水 俊貴（福井工業大学准教授）

設計者としてコンペや雑誌掲載、作品賞等で自身が手掛けた建物が講評、審査「される側」ではあっても、審査「する側」に回るのは、今回のふくい建築賞2020が初めての経験です。ふくい建築賞は、設計者、施工者と建築主様が一体となつての応募であることが、この賞の特徴の一つと考えています。建築賞への応募である以上、応募された建造物は「建築作品」として他者の評価に晒されます。設計者、施工者、建築主が集まり生み出された建物が他人の評価に委ねられていることに、審査員として身が引き締まる思いです。

以下、最優秀、優秀、奨励賞と選定された各作品について、三つの審査過程（書類審査、現地審査、公開審査）にて考えたこと、選択した理由について述べます。

大規模建築部門の講評

○いと勢保育園

保育園空間の中には様々な寸法の、保育のため、展示のための場所があります。雑然となりがちなら様々な要素を踏まえ、床から天井に向かって、床の仕上げ、子供のベンチ、取手、開口部、建具、

ランマ、天井等々と水平に層状に保育空間の機能が整理され、触感だったり視覚的な眺めだったり、空間として整理しています。かつ魅力的な造形や照明計画に工夫があります。またシナベニヤなど「加工された木材」を主な仕上材として無垢材より目立って使用し保育園としての安全性や清潔感に訴求していることが特長にも感じました。保育施設を超えて、大規模部門として、周辺環境を踏まえた開口部の取り方、構造材の配置、寸法や仕上げの選択など、設計者が建築的な整理を行なっていることを最優秀に値すると評価しました。

○岡保こども園

ゆったりした階段のある講堂が園児の活動動線に組み込まれていて、また園庭の周りをめぐる庇スペースや2階のバルコニー等と立体的かつ一体的に使われている様子が現地審査で感じられました。一点、鉄骨空間と木造空間のスケール感の違い、鉄骨屋外階段や手摺の鉄材の下地と木部分の組み合わせが園空間の連続性や接続性、一体性をより強くし、園児が最も触れる部分なので、その組み合わせや整理、ディテールにさらなる工夫があればなあ…考えました。

○勝山市体育館ジオアリーナ

竣工してから時間が経過している中、とてもきれいに使われていること、また多くの市民の方々が一

ンニングやトレーニングに訪れていることから、建物を大事にされていることが伝わります。アリーナをめぐる回廊が全面的にサッシ開口によって開かれ、日照や眺めをコントロールする繊細なパンチングメタルのルーバーが建物内外の空間を特徴づけています。ブラインドがどのくらいの頻度で閉じられているのか気になりました。明るく開放的な空間を上手く活用したイベントの開催や使い方が、今後この建物の魅力を引き出しつつ、建物を維持使用していく上で大事なことだと考えます。

○ほほ咲みの郷

集合住宅の形として、蛇がトグロを巻くように各住戸が連なり、周辺の自然に対して幅広く開口部や眺めを展開しているのが印象的でした。戸建て住宅っぽくもあり、集まって住んでいる感じもあるミックスされた姿に面白さを感じました。

もっと外部との連続性が展開されていても良いのでは？と考えました。リビングの高窓に雨や雪の日でも屋内で明るく過ごす工夫を感じたのですが、窓以上に、より屋外と接続するように設えがあってもいいのかなとも考えました。

中小規模建築部門の講評

○水嶋農機 社屋

金属で出来た農機具のカッコよさを引き出す。設計された空間そのものが、建築主が扱う農機具や事業のブランドイメージに大きく影響することを、設計者が相当に意識し、構造や工法の選択から取り組んだことが、現場で見て取れました。建築主の目的や要望に叶うために、設計した空間が前に出ない建築…機械の金属感の美しさ、農機具の用途美（植物や木材を扱うということ）と構造材である木材の呼応と、逆に対比…。周辺の田園環境ののんびり感と、ロードサイドの殺風景さを、なんでもない木質材のシンプルかつ整理したまとめ方や、外部の工場的なスパンドレル材や波板などの使用により、福井においてどこにでもある風景を、カッコよく整理しなおしていること、特異なかたちや素材に囚われることなく、空間が形作られていることが、この建築の最大の魅力であり、設計者が公開プレゼで言いたかったことだと受け止めました。さらに大規模な事業系建築に展開されていくことで公共性を持つていくことを期待します。その整理や選択、将来性を感じる建築であることが、最優秀に値すると考えます。

○ひらざわ内科ハートクリニック

気持ちの良いカフェのような診療所…事業系建築として、「安心感」や「不安を持たせないこと」、「健康」や「前向きな空間」「外を向いた空間」をつくることに、設計の意図を置いていると感じました。待合から受付、診察、処置と続く、診療所の水平に流れるプランニングに、待合カウンターや面する水平窓、軒下の庇などの空間要素を重ね合わせて、落ち着いた風景を作り出そうと注意が払われていることが印象的でした。反面、徹底して前面道路側に意匠的な操作を集中していることを事業系建築としての割り切ると見るか、景観や、社会的な可能性を建築が持っているかという点で気になりました。

○弁柄色の集会所（岩本公民館）

公共建築の中でも近隣の方々の利用頻度の高い公民館において、弁柄色や漆の仕上げ、和紙の使用など、かの地で使われてきた仕上げを気を遣うことなく取り込んでいること、大広間の気兼ねない空間や、前面の駐車場に面した厨房の配置などに、今後の使われ方の具体的なイメージがわかり、建物の持続性を感じました。色や仕上げに細心の注意を払われたことをプレゼにて感じましたが、外壁スパンドレルの扱いや、内部の廊下の床の仕上げ、手摺の既製品などコントロールが難しい場所と注意が払われた場所とのバランスが気になりました。

○BOSTON CLUB

他業種他オーナーだった隣地の建物を取得して、ブリッジにて接続し、建物内部をリノベーションしていること、さらに隣接する公園に向かっての外部環境をリノベーションする計画自体が魅力的な建築です。ただミュージアムや店舗としての屋内空間が手堅くカッコよくまとめられていた反面、外部のブリッジ部分の接続や仕上げのまとめ方が気になりました。

住宅建築部門の講評

○なかとのくちちょうのいえ

「大草原の小さな家」という海外ドラマが子供の頃好きでした。遮るものなく目前に広がる田園風景を眺めて暮らせる、この住居のリビング土間に伺い、ドラマを思い出しました。塀や柵がなくとも暮らしていける社会があること、その社会や敷地を前提に建築を成立させることができること、ふくい建築の最大の魅力の一つかもしれません。そしてこの魅力を最大限に享受して暮らすための住居を成立さ

せる方法の一つとして、設計者のいう「匿名の力」が必要なのかもと考えるとします。単体のこの建物に加えて、設計や工法に、地方の固有性や手工業性を尊重しつつ大企業的な大量生産標準化に対抗しようという気概も含めて、最優秀に値すると考えます。

○宮司の住処

現代的な文明や空間基準を享受する暮らしをするならば、リノベーションは割りに合わないと感じます。ご先祖よりの建物を使い続けるため、小手先のリノベーションではなく大規模な曳家を行なつての徹底した耐震改修を行ったこと自体を評価しました。古い建物であるが故、現代の耐震改修との矛盾が、間取りの痕跡となって、空間や仕上げに現れていると感じました。今後その矛盾を改修する将来に向かって、使われ続けることを願っています。

○house/

小さな開口部のある、小さいけれど各々固有の機能が与えられたスペースが生活動線の上に連続していて、かつ折れ曲がり見え隠れすることが印象的な内部空間です。折れ曲がる場所や水回りなど住居の機能がある場所に、小さな開口部があることが連続

してつながりをつくり、開口部はさらに屋外につながりをつくることで、住宅内部に狭さを感じることも、外部から遮っていること、守られる場をつくることを意図した建築だと感じました。

屋外の意匠からも、人が入れないサイズの開口寸法が散りばめられていること、でも意匠的に同一の開口部が散りばめられているようにコントロールされた外観や、はっきりした存在感のある切妻屋根に、設計者の明快なこうしたいという意思を感じます。

○富田邸

この建物の最大の魅力は、四角いシンプルな箱の中に、建築主さんの要望が素直に詰め込まれて解決されていることです。階段室アプローチと呼ぶべきでしょうか、1階のガレージや2階のリビングダイニングとのつながりを重視した部屋の配置計画が、リビングから屋外につながるBBQテラスや、お隣の瓦屋根を眺めるような水平窓は気持ち良くて、2階にいても近所とつながっていると感じるパブリックな場所が実現しています。建築としてシンプルに仕上げられているので、これからは建築主様の好みでカスタマイズされていくことが、楽しい建築になると感じました。



現地審査の様子

【大規模建築部門】奨励賞

ほほ咲みの郷

設計者：(株)佐々木一級建築士事務所
佐々木 晃一
施工者：技建工業(株)



【中小規模建築部門】奨励賞

BOSTON CLUB

設計者：(株)BAUM
岸名 大輔
施工者：山崎建設(株)

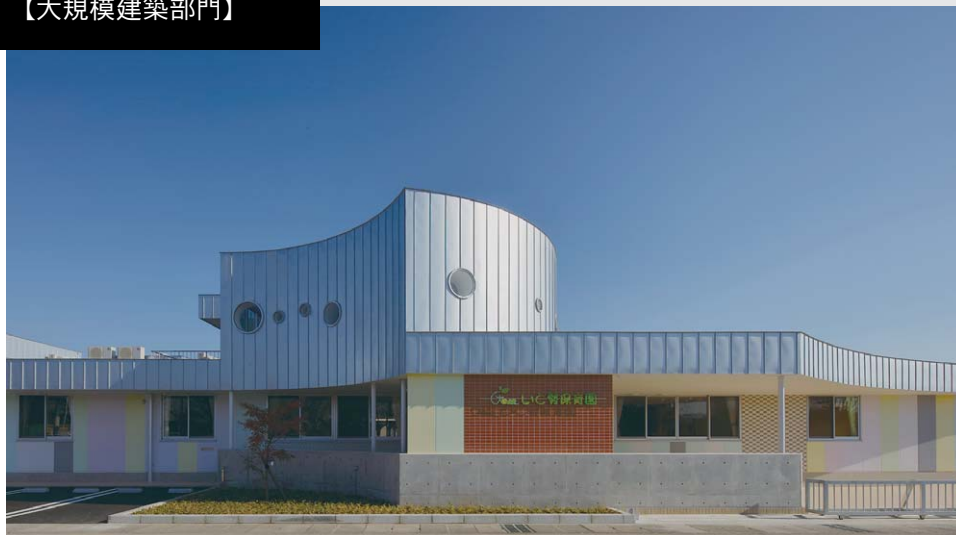


【住宅建築部門】奨励賞

富田邸

設計者：杉本秀・一級建築士事務所
杉本 秀雄
施工者：秀・建築アトリエ(株)





西側外観：2階はガルバリウム鋼板で曲面をつくり、1階は多様な素材で保育園らしい楽しさを演出した。

いと勢保育園

設計監理：清水隆之建築設計事務所

清水 隆之

施工：(株)三木組 福井支店

建築位置：坂井市春江町

工期：'18年2月～'18年11月

構造規模：鉄骨造・地上2階

敷地面積：3,520 m²

建築面積：1,405 m²

延べ面積：1,361 m²



東南側全景：隣接するエンゼルランドとの連続性を考え、公園の自然な環境と一体感が生まれることを目指した。



1階平面図：教室は0, 1, 2歳児と3, 4, 5歳児で大きく2つのゾーンに分けている。

福井県春江町で20年以上親しまれてきた保育園の新築移転である。敷地は子供達に人気の施設エンゼルランドの向かいにあり、日々多くの親子連れが訪れる大きな公園でもある。

また、近隣は閑静な住宅地と飲食店が建ち、落ち着いた住環境を形成している。恵まれた敷地環境のもと、ここで育つ子供達と保護者や先生達が安心して健やかに毎日を過ごせる保育園を目指した。

以下3つの考えをもって設計に取り組んだ。

1. 保育園特有のデザインを活かす
・指づめ防止や木質素材のやわらかさを積極的に取り入れる。
2. 普通の日常で過ごす安心感
・家庭の延長にあるような安心感と楽しさをもつ空間をつくる。
3. 多種多様な違いを尊重する
・素材の違いや形の多様性で保育園の教育方針を示した。



廊下はトップライトと絵本のコーナーを設けて一年を通して明るい環境をつくっている。



教室は木質素材の柔らかさを活かし、家具や照明の配置を工夫して設計している。

岡保こども園

設計監理：(有)アーキズム建築設計事務所
瀬戸川信之・羽場千尋
施 工：永和住宅(株)

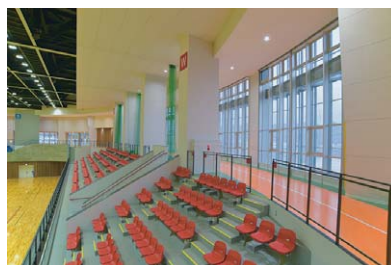
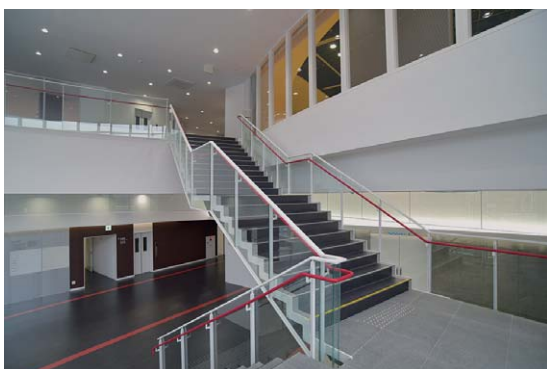
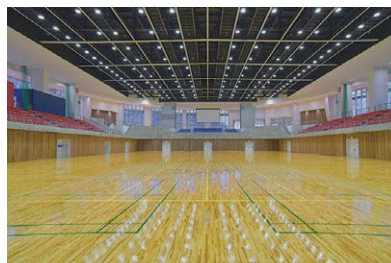
建築位置：福井市河水町
工 期：'17年9月～'18年3月
構造規模：木造・地上1階 鉄骨造・地上2階
敷地面積：1,640 m²
建築面積：913 m²
延べ面積：971 m²



勝山市体育館ジオアリーナ

設計監理：協同組合 福井県建築設計監理協会・
石グロ設計事務所 設計共同企業体
佐々木基之・梶 久仁雄・水上 諭
石畝 正樹
施 工：建築：(株)見谷組・大北久保建設(株)・(株)豊栄建設
電気設備：椿坂電機(株)
機械設備：(株)シマキ工業

建築位置：勝山市昭和町
工 期：'14年8月～'16年3月
構造規模：SRC造・S造・地上2階
敷地面積：138,000 m²
建築面積：5,039 m²
延べ面積：6,613 m²



第7回ふくい建築賞

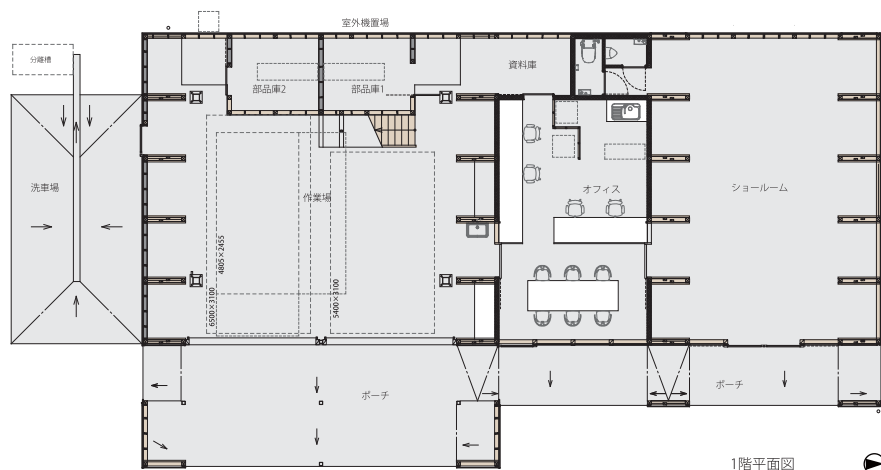
【中小規模建築部門】



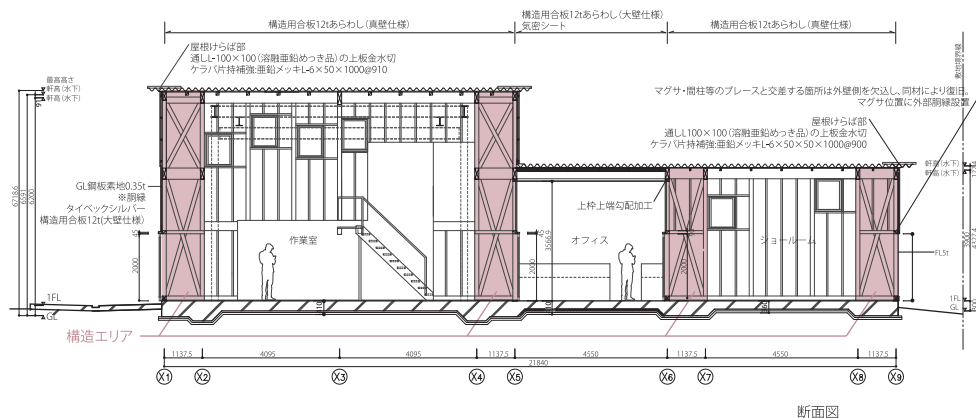
水嶋農機社屋

設計監理：(株)ヒヤッカ
施工：(株)フクシン

建築位置：越前市
工期：'16年8月～'17年5月
構造規模：木造・地上2階
敷地面積：928㎡
建築面積：258㎡
延べ面積：237㎡



1階平面図



断面図

周辺環境と本計画の背景

田園が広がる中を一直線に抜ける幹線道路。沿道にはコストの最適解から生み出されている量販店建築が立ち並びます。水嶋農機は人通りの少ない、地域の集落にあった農機販売・修理業を営む家族主体の会社。先代からの事業継承に際して、今後の事業のあり方や地域との関わり方などを模索していくなか、幹線道路に出店し、量販店建築の一角として、地域の日常に触れることを選択しました。

ここで目指したのは、幹線道路に並ぶ量販店建築の経済性や効率性に倣いながらの事業系建築としての価値の向上。

- ・鉄骨を木材に置き換えての大空間の確保
- ・ローコストの素材による視覚的快適性の向上
- ・商業施設としての看板建築の実現
- ・機能性の確保による事業の効率化

構造

- ・4つの構造エリアに挟まれた3つの機能空間
- ・作業上必須な鉄骨架台に鉛直荷重のみを負担させている木造建築

素材

- ・折板や波板のガルバリウム鋼板素材を使い、安易な装飾性を排除
- ・ポリカーボネートの透明性を活用

事業と建築に必要な要素を的確にコントロールした建築自身が水嶋農機の『看板』として機能しています。

ひらざわ内科ハートクリニック

設計監理：伊藤瑞貴建築設計事務所
伊藤 瑞貴

施 工：サカイ建設不動産(株)

建築位置：福井市西谷
工 期：'18年10月～'19年3月
構造規模：木造・地上2階
敷地面積：706 ㎡
建築面積：237 ㎡
延べ面積：263 ㎡



弁柄色の集会所 (岩本公民館)

設計監理：吉田設計
吉田 修二郎

施 工：㈱関組

建築位置：越前市岩本町
工 期：'15年8月～'16年3月
構造規模：木造、地上1階
敷地面積：849 ㎡
建築面積：291 ㎡
延べ面積：269 ㎡





今回の計画は、周辺を山並みに囲われた、南側に田園風景が広がる大らかな敷地に建つ、ご夫婦とお子様の三人が暮らす戸建て住宅の計画である。当初の予算は、全て込みで2,000万円。大変厳しい予算だったが、ここにしかない普通の資源（自然・風景・地域にある一般的技術・素材など）を最大限活用していくことで、ローコストでも豊かな環境が作れるのではないかと考えた。

ゆったりとした環境に降り注ぐ光とそこを流れる風は、都会の狭小地では味わうことのできない豊かさであり、四季折々の表情を見せる田園風景や里山の風景は、世界中のどこにもない美しいランドスケープデザインである。今回の敷地は南側には遮るものがなく、また将来的にも建物が建たないことが予測されたため、光と風と風景を最大限取り込めるように、田園風景に大きく開かれた住宅とした。また、これまで弊社にて実績を積み上げ手きた、福井の気候風土を考慮したセミオーダーハウスのノウハウを活用することで、低価格で高性能な住宅を実現することができた。今回の住宅は、ここにしかない普通の資源（自然・風景・地域にある一般的技術など）を最大限活かした、田舎暮らしやアウトドアライフを楽しむことのできる「田園風景とつながる大きな土間のある普通の家」です。

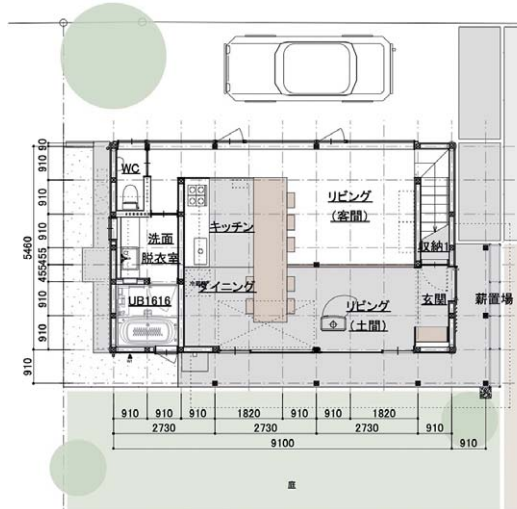
なかとのくちちょうのいえ

設計監理：伊藤瑞貴建築設計事務所

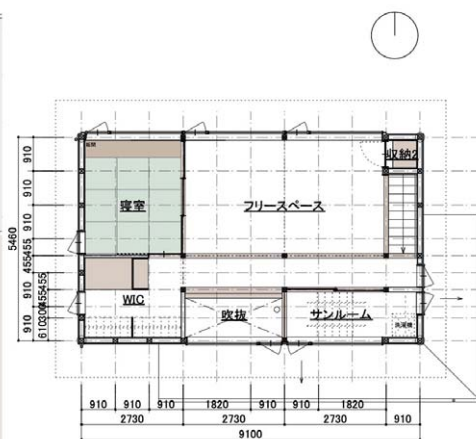
伊藤瑞貴

施工：タケウチ住建(株)

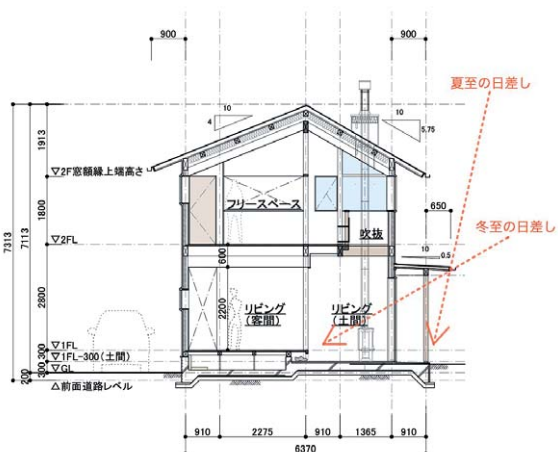
建築位置：鯖江市中戸口町
工期：'18年3月～'18年10月
構造規模：木造・地上2階
敷地面積：330㎡
建築面積：58㎡
延べ面積：96㎡



1 階平面図



2 階平面図



断面図

【デザインのポイント】

- Point 1** 大きな土間と下屋を設け中間領域をつくることで、田園風景や自然とつながる、田舎暮らしやアウトドアライフを楽しむ住宅を考える。
- Point 2** 大きな土間を設け、冬季の陽だまりをたくわえる、福井の気候風土に適した、サスティナブルな住宅を考える。
- Point 3** 住宅の汎用性を考えた、低価格で高性能な、4つのS（シンプル・スモール・サスティナブル・スマート）があるセミオーダーハウス。



house /

設計監理：清水隆之建築設計事務所
清水 隆之
施工：(株)深谷

建築位置：鯖江市水落
工期：'18年8月～'19年5月
構造規模：木造・地上1階
敷地面積：216㎡
建築面積：78㎡
延べ面積：76㎡



宮司の住処

設計監理：やすらぎの家設計工房
大月 和源
施工：大南建設工業(株)

建築位置：敦賀市公文名
工期：'15年8月～'18年3月
構造規模：木造・地上2階
敷地面積：516㎡
建築面積：114㎡
延べ面積：171㎡

